

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

未来の社会をリードする人材を育成することで地域の誇りとなる学校をめざす。

- ① 自立心と進取の気概を育成する
- ② フェアなルール感覚を育成する
- ③ 多文化共生・国際理解教育を推進する
- ④ 科学的・論理的に考え、行動する人材を育成する

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 自分の考えをまとめたり、発表したりする機会の多い授業づくりを推進する。
 - ①説明・発表・討論等を通じて、「思考力・判断力・表現力等」を育成するような「言語活動の展開」をめざす。
 - ②グループ活動、ペアワークなどを取り入れ、学習意欲を高めることに尽力する。
 - ③2020年度入試から始まる新しい時代に備え、積極的に研修に努め、新たな指導法と評価法を完成させる。
- (2) 総合的な学習の時間に展開していた「キャリアスタディ（CS）」の内容を精選し、平成30年度入学生から「課題研究」を全員に経験させる。
- (3) 国際教養科の教育活動の実績に基づき、実践的な英語教育と国際理解教育を一層推進する。
 - ① 英検を中心に GTEC や TOEIC 等の全員受験を勧め、資格試験合格率アップをめざす（新しい大学入試に備える）。
 - ② 全員参加の海外修学旅行の継続、英語圏およびアジア圏への研修の充実、海外からの訪問者の受入れを従来通り積極的に行う。
- (4) この数年間に整備した ICT や教育産業のコンテンツを活用するより質の高い授業と講習を実施する。
- (5) 希望進路達成率(第2希望も含めて)85%以上をめざす。
- (6) 中央教育審議会答申（H26.12.22）には、2020年度入試から、大学入学希望者学力評価テスト（仮称）の成績に加え、『小論文、面接、集団討論、プレゼンテーション、調査書、活動報告書、大学入学者希望理由書や学修計画書、資格・検定試験などの成績、各種大会等での活動や顕彰の記録、その他受検者のこれまでの努力を証明する資料』が大学入学者選抜の材料になる可能性が示された。この状況に対応し、情報収集と研究を行い、日々の授業に反映させる。
 - ① アクティブラーニング型の指導方法を積極的に取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」を生徒に身に付けさせる。
 - ② 中教審答申には、「パフォーマンス評価」や「ポートフォリオ評価」が例示され、達成度の基準を示す「ルーブリック」が紹介されている。ペーパーテストによらないこのような新しい評価を徐々に生徒に示していく。平成29年に発表されたe-ポートフォリオを研究する。

2 日常の中で自律し、社会の中で自立できる人材の育成

- (1) クラブ活動加入率の増加をめざし、各クラブが成果を出せるよう努力する。積極的にクラブ支援を行う。 ※部活動加入率80%をめざす。
- (2) ユネスコスクールとして国際交流と地域交流を推進する。「人権」、「国際理解（協力）」、「ESD」等の価値観に関する教育を通じて、グローバルな視野をもった人材を育成する。
- (3) 生徒会活動の活発化を図り、全生徒の自律心と自立心を高める。

3 生徒の希望をかなえる学校づくり

- (1) 日々の学校生活が楽しく充実したものであり、キャリア教育によって将来が展望できる、満足度の高い学校生活を送れるようにする。
- (2) 遅刻・服装指導等の継続、清潔できれいな学校作り、メディアリテラシー教育を進める。自宅学習時間の確保を考える。
- (3) 情報発信を重要視する。
- (4) 生徒が自主的に行動できるノークラブデーを有効活用するとともに、教員の働き方改革も推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導】 ()内はH29年度 教職員アンケートでは、63.4%が教員間で授業方法や学習到達度についてよく話し合いを行っており、その結果、生徒アンケートでは、「授業がわかりやすい」68.1%(68.5%)、「教え方を工夫している先生が多い」67.0%(66.5%)となっている。第2回授業アンケートにおいても「授業に対する生徒の評価」は全項目で昨年度を上回っている。今後も「よりわかる授業」をめざし、ペアワークやグループ学習等の参加型学習への授業改善に取り組み、アクティブ・ラーニングを積極的に推進していく。</p> <p>【生徒指導】 生徒アンケートでは、「悩み事や相談事を親身になって応じてくれる先生が多い」68.9%(67.9%)、「学校は生徒の心身の健康について配慮してくれている」71.6%(68.8%)等、教員の生徒への見守り姿勢への評価が少しずつではあるが年々向上している。また、「学校は生活規律や学習規律、挨拶など基本的な生活習慣の確立に力を入れている」81.6%(81.3%)となっており学校の生徒指導の姿勢が8割以上の生徒に理解されている。</p> <p>【学校運営】 保護者アンケートでは、全体の肯定的回答が平均80%を超えており、とりわけ「子どもは学校に楽しく通っている」90.3%(89.4%)、「学校は子どもの努力や能力を適切・公平に評価している」88.0%(86.3%)が高評価となっている。一方、「学校生活が安全・安心に過ごせ、学習・生活する空間として、機能性・利便性・快適性を備えた校舎・設備となっている」53.9%(57.4%)が極端に低く、生徒の学習環境の充実が大きな課題となっている。また、「学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かくおこなっている」69.7%(73.7%)が低下しているため、本校の教育活動について保護者との連携を密にする必要がある。</p>	<p>第1回(5/20) ○H30年度学校経営計画について ・経営計画及び評価の中で、数値での表現は子どもたちの表情とともに数値をとっていくのであればよいと考える。生徒の第1希望の達成率50%という数値は、もう少し高くすべきではないか。 ・英検などに力を入れているのは素晴らしい。特に泉佐野市はインバウンド数が全国で7番目。地域の国際化の先導役として今後も頑張っていって欲しい。 ・経営計画の中期的目標のシチズンシップ教育の項目をあえて消されたところ、御英断だと思う。高校がイニシアチブをとっているのは珍しいので今後も佐野型で進めていって欲しい。</p> <p>第2回(11/17) ○H30年度学校経営計画の進捗状況について ・安全安心に尽力されている。トイレの施設、LANや自習室など配慮を感じた。台風の影響がまだ残っているため生徒が安全に過ごせる改善を推進いただきたい。 ・中学校では1月上旬から私立高校の進路相談が始まり、その後公立を考えていくので3学期にもオープンキャンパスを行うほうがよい。申込み不要で気軽に学校訪問が出来れば良い。 ・2020年に向かって進んだ授業ができています。アンケートの数値が伸びてきているのは授業だけでなく先生への信頼が反映されているのでは。生徒たちがアジア近隣の国で何か取り組みを行えたら良いと思う。 ・授業見学で先生との信頼関係が透けて見えた。芸術の展示を見て賞を取ってなくても大きく展示されることによって生徒は大事にされていると感じる。授業アンケートの結果で難しいことを言うようだが、SDGs(持続可能な開発目標)の目標にもあるように、「誰一人取り残されることない教育」での悪い解答に当てはまる「全くあてはまらない」が0になればもっと良い。</p> <p>第3回(2/2) ○H30年度学校評価(案)及びH31年度学校経営計画(案)について ・学校教育自己診断 教員アンケートの回収率は100%をめざすべき。 ・100%でないというのは、押しつけていないという意味で学校らしさが出ているという見方もあるのでは ・アンケート結果は、高いレベルで推移しているため、昨年と同じ結果であったとしても維持することの大変さがあると思う。数値結果にのみこだわらず、その数字が示す意味をしっかりと感知することが大切。 ・数値が向上しているということは評価してよい。生徒が学校へ来て楽しいと思えることが一番大切。 ・国際空港のある地域の学校として、海外研修にも力を入れ国際交流をすることは、学校としても地域の役割を担っていると素晴らしいのではないかと。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 授業改革 自分の考えをまとめたり、発表したりする機会の多い授業づくりを推進する。	(1) (あ) 説明・発表・討論等を盛り込んだ授業を行う (い) グループ活動、ペアワークなどを取り入れ、学習意欲を高める。 学校教育自己診断「考えをまとめたり、発表する機会がある」70%以上を目標とする。 (う) 新学習指導要領の実施と新しい入試を見据えた研修の実施 (え) 授業アンケート「授業に対する生徒の評価-教材活用」(5. 授業では内容がわかりやすいようにさまざまな工夫がなされている。)80%以上を維持する。	(1) (あ) (い) プレゼンテーション、ディベート、グループ活動、ペアワークのいずれかの内容で、全教科で1回以上校内公開授業を行う。 学校教育自己診断左の項目70%(H29:67.3%) (う) 先進他校訪問の報告会を校内研修として1回以上実施する。 (え) 授業アンケート教材活用80%(H29:80.7%)	(1) (あ) 各教科で公開授業は実施できなかったが、教科担当者の80%は、説明・発表・討論等を盛り込んだ授業を実施している。(△) (い) 学校教育自己診断「考えをまとめたり、発表する機会がある」は、62.9% 更なる取り組み強化が必要 (△) (う) 「総合的な探究の時間」導入に向け先進的な取組みをしている学校を視察し、校内研修を2回実施 (○) (え) 自己申告票で全教員の目標設置として取り組んだ結果83.4%に向上。(◎)
	(2) キャリア教育と課題研究	(2) (あ) 「キャリアスタディ(CS)」の内容を精選する。 (い) 平成30年度入学生から「課題研究」を全員に経験させる。	(2) (あ) 新たなCS年間スケジュールを文書化する。 (い) 1年生全員がレポートなどの成果物を作成する。	(2) (あ) CS年間スケジュールを文書化し実行した。(○) (い) 「課題研究」は、現在発表準備まで出来ている。今後レポート内容の発表をする。(○)
	(3) 英語教育と国際教育	(3) (あ) 英検準2級・2級を中心にGTECやTOEIC等の全員受験を実施する。英検2級以上(または同等以上の評価)各学年60人以上を目標とする。 (い) GTEC、TOEIC、TOEFL等の分析を行う。 (う) 海外修学旅行、英語圏・アジア圏への生徒派遣、海外からの訪問者受入れ事業を実施する。	(3) (あ) 外部英語試験の全員受験2級以上60人 (い) 英語科で外部英語試験の研究を行い、今後3年間の計画を作成する。 (う) ①海外修学旅行、②英語圏への研修、③アジアとの交流、④海外訪問者受入れ事業を実施する。	(3) (あ) H30年度英検2級以上合格者 (○) 準1級 2人 GTEC 2級 100人 B1 16人 準2級 93人 A2 242人 (い) 作成済み (○) (う) ①グアム修学旅行実施、②カナダ語学研修実施・カリフォルニア交流派遣受入、③カンボジアスタディツアー実施・李秀賢氏記念交流事業実施、④ロータリークラブ留学生受け入れ。(◎)
	(4) ICT等の活用	(4) (あ) ICTや教育産業のコンテンツを活用するより質の高い授業と講習を実施する。 (い) 1年生の課題研究で生徒にICT機器を活用させる。	(4) (あ) 座学の授業の30%以上でICTを活用する。 (い) 1年生全員が課題研究でICTを活用する。	(4) (あ) 座学の38%がプロジェクターを活用(◎) (い) 1年生全員が課題研究でICTを活用する。(○)
	(5) 希望進路達成率	(5) 希望進路達成率(第2希望含む)を維持する。	(5) 希望進路達成率(第2希望含む)70%以上。 (H29:3年70%超)	(5) 希望進路達成率(第2希望含む)67%(△)
	(6) 新学習指導要領や中教審答申に対応した授業や評価の実施	(6) e-ポートフォリオを研究する (アクティブラーニングへの転換については(1)(あ)(い)に記す)	(6) 企画会議、運営委員会でe-ポートフォリオを研究する。	(6) e-ポートフォリオ導入に向け、IDの取得登録等の取り組みを始める。(○)
2 日常の中で自律し、社会の中で自立できる人材の育成	(1) クラブ活動加入率の増加	(1) クラブ活動加入率の増加をめざし、各クラブが成果を出せるよう活性化委員会や後援会が支援する。年度途中でも入部しやすい環境づくりに取り組む。	(1) クラブ加入率75%	(1) クラブ加入率75.2%(○) ・水泳部と吹奏楽部が近畿大会に出場 ・吹奏楽部、ダンス部が中心となり他の運動部員も合わせ夏の甲子園大会の友情応援実施
	(2) ユネスコスクールの活動	(2) (あ) ユネスコスクールとして、国内外に情報発信を行うとともに、校内においてもその取組みが共有財産になるようにする。 (い) 泉佐野市が主催する地域イベント(H29の政策コンテスト、防災訓練における多言語避難所シミュレーション等)にユネスコスクールとして関わる。	(2) (あ) 国際理解教育等への肯定感 学校教育自己診断80%以上維持(H29:81.3%) (い) 全国規模、地域規模の発表会やコンテストに1回以上参加。(H29:泉佐野市政策コンテスト最優秀賞、ボランティア・アワード2017全国大会最優秀賞受賞)	(2) (あ) 学校教育自己診断「国際理解教育等への肯定感」81.9%(○) (い) 軽音楽部が泉佐野市の要請で「中国成都国際音楽祭」に参加 ユネスコ部が「泉南地域5市3町合同防災訓練」で多言語避難所の役割を担う。(◎)
	(3) 生徒会活動の活性化	(3) (あ) 限られた条件を最大限に生かして生徒会活動を活性化させる。 (い) 近隣支援学校との交流などに取り組めるようにする。	(3) (あ) 生徒会活動への肯定感85%を目標とする。 学校教育自己診断(H29:84.7%)	(3) (あ) 学校教育自己診断「生徒会活動が活発」81.3%(△) (い) 近隣支援学校との交流はできなかったが、「エビ7募金活動」「ビッパル運動」実施(○)
3 生徒の希望をかなえる学校づくり	(1) 満足度の高い学校生活	(1) 従来からの学校生活に対しての高い満足度を維持する。	(1) 学校教育自己診断アンケートによる満足感80%を維持する。 (29年度82.9%)	(1) 学校教育自己診断アンケート「学校へ行くのが楽しい」83.2%(◎)
	(2) 遅刻・服装指導等の継続、清潔で美しい学校作り、メディアリテラシー教育推進、自宅学習時間の確保	(2) (あ) 遅刻指導を継続し、さらに時間を守る意識を高め、生徒の生活習慣を向上させる。 (い) 高校1年生の母校訪問を含め、中学生から「あこがれられる」高校生としてのあり方を追求する。 *ボランティアや出前授業など (う) メディアリテラシー教育(SNSに関する指導)を計画的に行う。	(2) (あ) 年間総遅刻数2,000件以内を目標とする。 (H29:2,147件)	(2) (あ) 年間総遅刻数2,415件(H29:2,147件) (い) 高校1年生の出身中学訪問実施(27校) 教員が中学校訪問を実施(泉佐野市5校 熊取町3校)(○) (う) 各学期の終業式やその他の集会時にSNSに関する指導や講話を実施(○)
	(3) 情報発信を重要視	(3) (あ) 全員で広報する体制をさらに強化する。 (い) 広報スタイルをさらにブラッシュアップし、広報媒体(チラシ・リーフレット、WEB)に継続的に工夫を加える。	(3) 学校説明会や体験授業の参加者がのべ900人の維持をめざす。 (H29:校内約1,120人 校外約250人)	(3) (い) 「学校パンフレット」「部活動紹介」「学校情報」を刷新(○) 学校説明会や体験授業の参加者 校内1,539人 校外278人(◎)
	(4) ノークラブデー活用と働き方改革	(4) ノークラブデーと働き方改革の理解を深め、実践につなぐ。	(4) 職員会議後の時間などに年間1回以上教員研修を行う。	(4) 職員会議等機会あるごとに啓発を実施 超勤月平均33.5H(△) (H29:34.1H)